

人とのふれあい 地域のキラリさん

子どもが探検に出かけ、様々な場所を調べる過程で、そこで生活している人や働いている人など、様々な人と出会うことにつながります。人と適切に接することを経験できる機会となりますし、地域に親しみや愛着をもつきっかけにもなります。

みなさんも校区を探検している中で、素敵なお友達になる方にお会いせんでしたか？子どもたちも地域の人と接するためには勇気が必要です。まずは教師自身が勇気を出して、地域の方に話し掛けてしまいましょう。

ここが
ポイント

第一印象が大事。まずは話してみましょう！

どんな人と会うにも、まずは第一印象が大切です。これから学習の中でお世話をなるかもしれないと思うと、どのようにコンタクトを取るかも大事になってきます。初めは相手も私たちのことが分かりませんから、名刺を渡したり、「○○小学校の者です」と切り出したりすると話がしやすくなります。

今はPCで名刺が簡単に作成できます。見学先から連絡をいただくこともありますので、ぜひ持参しましょう。

学習に関係することはもちろん、登下校時の子どもの様子や地域の情報を得る絶好の機会となります。

ここが
ポイント

焦りは禁物。その人をよく知ること！

ビジネスの世界でも、いきなり仕事の話をするとうまく進まない時があります。まずは、ご挨拶をしっかりと行います。次に訪問の目的を伝えます。そして依頼を始めるというステップを大切にします。何度も会うことで、お互いの名前と顔を覚え、気持ちを通わすことができます。これは子どもも一緒です。

「お店で働く人」から、「○○商店の△△さん」と名前が言えるくらい、子どもにも仲良くなつてほしいですね。これが地域への愛着につながる第一歩です。

あるある NG!

実際に探検で人と接するのは子どもです。子どもが関わる方の中には、普段子どもと接する機会が少ない方もいます。中には苦手としている方もいますので、少し心配があると感じた場合には、そこに教師自らが引率することも必要です。その方の話を子どもに噛み砕いて伝えたり、子どものインタビューの意図をその場で伝えたりするなど、橋渡しをする役割も考えられます。

Active

インタビューは子どもにとって楽しみな活動です。そして、「しっかり聞いてこよう！」と張り切って臨む活動でもあります。しかし、聞きたいことを十分尋ねられなかったり、メモすることに精いっぱいになつたりすると、せっかくのインタビューの機会も不十分な結果となってしまいます。

事前にどのようなことを聞きたいのかグループで相談したり、質問する順番を考えたりさせてみましょう。また、質問の答えを予想しておくことで、更に聞いてみたいことが出てくるかもしれません。「聞いてみたい」「話したい」という思いがあれば、相手もたくさんのこと教えてくれますし、子どもも満足感をもち記憶にとどめることができます。

気付き！

インタビューして聞いたことは、探検後、すぐにカードに記録させましょう。その日は覚えていても、数日すれば忘れてしまうことがあります。違う場所へ探検に行った子にも後で正確に伝えることが大事です。

また、探検で得た情報は、クラスや学年全体で共有できるような工夫があるとよいですね。